

ミニデイ【おとこの台所 桜新町だより】

発行責任者 桜新町広報：柏木君夫、岡元正史

明けましておめでとうございます。2021年が良い年でありますように。

渋沢栄一。

今年の日曜日の夜の大河ドラマの主人公は「渋沢栄一」。

渋沢は、一夜、岩崎弥太郎と会席。その席で、岩崎は、渋沢に「貴方と私が手を組めば、日本中の利益はふたりで思いの通りにできる」と持ちかける。

「日本の資本主義の父」渋沢は、岩崎のその言葉に憤然して席を立つと、二度と岩崎と目見えることはなかったという。

榎本武揚と、黒田清隆。

榎本武揚。江戸幕府の旗本。英語を中浜（ジョン）万次郎に教わる。長崎海軍伝習所で学び、幕府オランダ留学生に選ばれる。総勢15名。うち幕臣9名、海軍士官5名と医学、法学、統計学など専攻の4名。他に船大工、時計師、鋳物師、水夫など民間人が6名。幕府の先見性がわかる。榎本の幕命は、船舶運用術、蒸気機関学、砲術、船具。文系の才にも秀でていた榎本は、「万国海律全書」などの国際法を学ぶ。幕府がオランダに発注した軍艦「開陽丸」を受領し、同艦で帰国。



黒田清隆。西郷隆盛、大久保利通に次ぐ薩摩藩のナンバー3。

榎本と黒田の二人は、江戸の江川塾で一緒に蘭学を学んだ仲だった。

二人は幕府軍と新政府軍に分かれて、箱館戦争で戦い、榎本軍が敗退する。榎本はオランダ語の「万国海律全書」を「この本は日本の将来に必要な」として、黒田に託し、自害しようとするが、黒田は必死に止める。囚われた榎本の助命に黒田は剃髪して奔走。有名なエピソードだが、先日、BSで「剃髪」した黒田の写真を初めて見た。福沢諭吉も助命に尽力したという。しかし強弁派の木戸孝允や大村益次郎らと、助命派の黒田らの朝議は紛糾し、大久保が西郷に意見を求め、西郷の一言で一決し、無罪となった。

のちに榎本と黒田の子供らは結婚して、二人は縁戚にある。

榎本は、その後、逓信、文部、外務、農商務等の大臣や、海軍卿などを歴任。

黒田は、北海道開拓使長官、農商務、逓信、内閣総理大臣、枢密院議長などを歴任。

榎本は旧幕臣の子弟の救済のため、徳川育英会の設立に尽力し、戦前唯一の私立の東京農学校（後の東京農業大学）を設立する。場所は、東京市麴町区飯田河岸。今のJR「飯田橋駅」構内。中央線の延伸に伴い「飯田町停車場」が新設。買収されて立ち退く。今、東京農大の正門を入ると、右手に榎本武揚翁の胸像が凛として建っている。

これからの予定 1月の定例会は、残念ですが中止。早い再開を望みます。